

昭和62年10月27日～11月21日
大学図書館2階展示ホール

狭衣物語

狭衣物語は、平安朝後期に成立した物語文学である。六条斎院禊子内親王に仕えた宣旨という女房であった源頼国女が著わしたとするのが通説となっている。狭衣の名称は、巻一「いろいろに重ねては着じ人知れず思ひそめてし夜半の狭衣」という歌に由来する。また狭衣物語は、伝本が数多く、異本群がおびただしい。これは物語文学中、住吉物語を除き、類例をみないといわれる。刊本は、元和九年（1623）刊の古活字版をはじめ数種の古活字版、整版本では承応三年刊本（目録・年序・本文・下紐・系図）が刊行され、その後刷本が、板元を替えながら流布した。また、物語中の狭衣大将と飛鳥井姫の恋物語の部分を翻案した御伽草子も数多く作られたが、諸本間に本文の異同が多く、潤色が甚だしい。

- 1 さごろも (黒川文庫)
写本十二冊(四巻) 美濃判 十行書き 中央朱題簽 奥書なし
[室町末期写] 全冊に朱点 第一～六冊に墨筆の書き入れ 「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵書」「月明荘」(反町茂雄)の蔵書印あり
- 2 狭衣 (常磐松文庫)
古活字版八冊(四巻各上・下) 美濃判 十二行書き 紺地押型表紙
原題簽巻二、巻三各上下のみ存す 無刊記 [元和期頃]
「増補古活字版之研究」中巻888頁参照。下巻図版362と同種

- 3 狭衣 (黒川文庫)
古活字版八冊(四巻各上・下) 美濃判 十二行書き 原丹表紙
原題簽 無刊記 [元和期頃] 「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵書」
の蔵書印あり
「増補古活字版之研究」中巻888頁参照。下巻図版363と同種
- 4 狭衣 (常磐松文庫)
写本四冊(四巻) 半紙判 十行書き 紺地金泥絵表紙 朱題簽
綴帖装 蒔絵箱・木箱二重入 奥書なし [江戸初期写] 「岡田真
之蔵書」の蔵書印あり
- 5 狭衣 (常磐松文庫)
写本四冊(春夏秋冬四巻) 半紙判 十行書き 紺地金泥絵表紙
綴帖装 蒔絵菊草文箱入 内題・奥書なし [江戸前期写]
- 6 さごろも (常磐松文庫)
写本四冊(春夏秋冬四巻) 半紙判 十行書き 朱題簽 綴帖装
内題・奥書なし [江戸初期写] 「岡田真之蔵書」「残花書屋」
(戸川残花)の蔵書印あり
- 7 さごろも (常磐松文庫)
写本六冊(下紐共) 美濃判 九行書き 内題なし 元和四年(16
18)寛佐写 朱点あり 「岡田真之蔵書」の蔵書印あり
- 8 さごろも (常磐松文庫)
写本四冊(四巻) 楨形本 十一行書き 内題・奥書なし 朱注あり
「御巫書蔵」(御巫清臣) 「岡田真之蔵書」等の蔵書印あり

9 さごろも (常磐松文庫)
写本六冊 (下紐共) 楨形本 十一行書き 綴帖装 紺地金泥表紙
木箱入 内題なし 奥書「此狭衣抄二冊臨江齋紹巴被注之依許可書
写之畢 天正廿年(1592)三月日中臣祐範」 「岡田真之蔵書」
「芸叢之印」等の蔵書印あり

10 狭衣 (常磐松文庫)
写本六冊 (目録並年序・下紐共) 小本 横長本 十七行書き
安政六年(1859)写 墨書入れ 細字本 「万里小路陸子」の
蔵書印あり

11 さごろも (黒川文庫)
版本五冊 (下紐共) 半紙判 十一行書き 絵入 [承応三年板]
寛政十一年(1799)三木安兵衛版 第五冊目 目録並年序・下
紐・系図。明治四十三年中村秋香校本の旨黒川真道識語あり 朱校
「黒川真道蔵書」のみ蔵書印あり

12 さごろも (黒川文庫)
版本十冊 (四巻) 半紙判 十一行書き 絵入 [承応三年板] 後印
寛政五年(1793)平春海書入れ 明治十、十七年黒川真頼校語
「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵書」の蔵書印あり

13 さごろも下ひも (黒川文庫)
版本四冊 (内一冊系図) 半紙判 十一行書き 承応三年(16
54) 三木氏親信梓行 朱書入れ 「黒川真頼蔵書」「黒川真道
蔵書」の蔵書印あり

狭衣物語の注釈としてはもっとも古く、天正十八年冬に成立した。
里村紹巴の筆になったもの。本書は承応三年刊本の狭衣物語本文と
ともに刊行された。門人昌叱の書入れと、一華堂切臨の補筆がある。

14 狭衣系図 (黒川文庫)
版本一冊 半紙判 承応三年(1654) 谷岡七左衛門板
「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵書」の蔵書印あり
三条西実隆の作といわれ、狭衣物語の登場人物の關係及び巻数を
述べている。本書も同じく承応三年刊本の一冊に加えられて刊行さ
れたもの。

15 狭衣文談 (常磐松文庫)
写本八冊 (四巻) 半紙判 十~十一行書き 奥書なし [江戸中期]
文禄三年(1594)序 「松乃や蔵書」の蔵書印あり
「狭衣下紐」を増訂した狭衣物語の注釈書。三条西実隆の著述と
もいわれるが、確証はない。

16 さごろも物語絵巻 (常磐松文庫)
卷子本一軸 29.7cm 淡彩絵入 内題なし 外題「さごろも
物語」 巻末に「(「義」字花押)御数寄屋御道具 狭衣物語
詞伏見院御宸翰 絵土佐光秀真跡」
「断簡のみが現存する『狭衣物語絵巻』の、散逸以前の原本の江
戸後期の模写本である東京国立博物館B本を忠実に写したもの」
(昭和61年度市民公開講座国文学関係貴重書展示目録) という。

17 さごろも(御伽草子) (常磐松文庫)
奈良絵本三冊 美濃判 十行書き 綴帖装 内題・奥書なし [江
戸前期写] 下巻巻末に「居初氏女書画」とある

18 さごろも(御伽草子) (常磐松文庫)
奈良絵本三冊 半紙判 横長本 十三行書き 紺地近泥絵表紙
朱題簽 奥書なし [寛文・延宝頃写] 大正二年 浦田信四郎識語

19 さごろも (御伽草子) (常磐松文庫)

版本二冊 (上・下) 美濃判 十五行書き 色刷挿絵 寛文五年
(1665) 松会開板

松会本とは、明暦・寛文頃の幕府御用書肆より出た古い版本をいう。

20 飛鳥井大しゃうさうし (御伽草子) (黒川文庫)

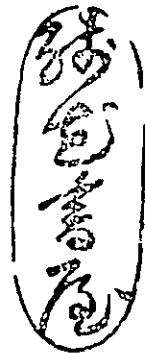
写本一冊 美濃判 内題なし 承応三年 (1654) 大坂 松屋
清兵衛写 「黒川真道蔵書」のみ蔵書印あり

「さごろも」(御伽草子)と本書は、異本関係にある。

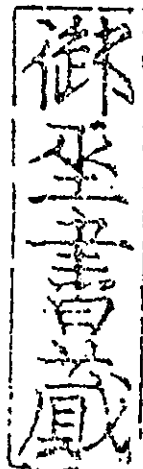
蔵書印



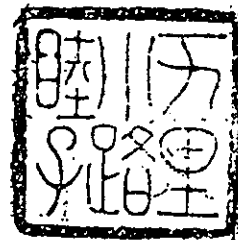
「岡田真之蔵書」



「残花書屋」(戸川残花)



「御巫書蔵」(御巫清臣)



「万里小路陸子」